

心理療法の会（令和7年度）実績

回数	日付	テーマ	講師	内 容
1	4/19	『SST について学ぼう』	奥田悦子 臨床心理士 (21221)	SST は子どもの発達を助けるツールとして、人間関係から受けるストレスの軽減スキルとして、精神障害の回復期の治療やリハビリとして広くつかわれています。講義の中で身近な臨床で使えるツールとして技法を紹介していただき、参加者の臨床現場からの事例を出し合い進めていきました。活発なディスカッションや実演も交え、現場にも役に立つ知識が体得できた会となりました。
2	5/31	『人生最早期のころの形成』	時川ちづる 臨床心理士 (14773)	ウニコットやアラン・ショアの提供する「母子間の関係性の形成」をテーマにスプリティングという「偽りの自己」「主観的自己」の形成から見えてくる人生最早期の親子のコミュニケーションが今後の人生の対人関係のひな形となってくるとのこと。普段のどの臨床場面で共通して考察される親子関係の問題をアセスメントするための重要な理論を学びました。ウニコットやアラン・ショアのフォーラムや勉強会に参加しての内容や著書からの抜粋に従って進めていきました。
3	6/28	『対人職の抱える心理的負担』	佐伯敦子 臨床心理士 (23078)	講義の後、教育、医療、福祉、司法などで働く参加者個人に組織全体と連携していく思いを語ってもらいました。それぞれの職種の悩みをを、「自己開示」に焦点を当てると業種を超えてそこに共通点がみいだせることを学ぶ事ができました。「お互いが安全な関わりがどのくらい出来ているのか?」「安全に自己開示してもらえるには?!」「職場という狭いコミュニティでお互いに支え合うためには?」などなどをテーマに話題を持ち合う会となりました。
4	9/27	『不安』について	西村奈都子 公認心理師 (第 58699 号)	『不安』はカウンセリング場面でどう取り扱うか……。いつもセラピストとしてどんな臨床場面でも向き合う視点ですが、改めて不安についての講義を受けることでクライアントさんの不安、セラピストの不安、関係に大きな影響力を与える現場で体感する転移・逆転移としての不安など多くを学び直すことができました。もう一度『不安』について掘り下げてく機会となりました。
5	10/18	事例検討	柴藤満樹子 公認心理師/教 諭 (第 53407)	-学校現場における教師と保護者と本人への困り感へのアプローチ- 教育現場での長年のキャリアから見えてくる連携のあり方を事例から学ぶ事ができました。多職種連携はいつもセラピストとしてどんな臨床場面でも向き合う視点ですが、子どもたち、クラス、保護者、担任、学校、地域などクライアントそのものが動いていく様子を事例を通して学びました。セラピストとしての視野の拡大や柔軟さが必要だということ学ぶことができました。

6	11/30	『多様な子どもたちへの対応』	石橋めくみ 公認心理師 (第 89218 号)	『多様な子どもたちへの対応』について」現場で教師として活躍されてこられた経験をお話いただきました。現在は公認心理師として学校でご活躍されています。スクールカウンセラーとしての視点、教師の立場からの視点でのお話が聞けました。学校が求める心理士とはについても多くの気づきが得られたのですが、教師という立場の辛さなど生の声を聞く事ができた会となりました。
7	1/24	『バッチフラワーレメディの臨床現場での活用』	時川ちづる 臨床心理士 (14773)	イギリスの民間療法で皇室から民間まで広く愛され続けている療法はバッチ博士の研究により更に世界に広まってきました。神田橋先生もイメージ療法の1つと位置づけておられます。今回はバッチレメディの使い方や選び方の基礎と臨床現場で困難なクライアントさんに対する外在化を勧めるときの利用方法などの講義のあと、どんな事例に効果的なのかなど持寄りしました。フォーカシングのクリアリングスペースの療法に応用することができ活発な意見が聞かれる会となりました。
8	2/28	『事例検討』 対応困難な ケース	時川ちづる 他 臨床心理士 (14773)	-様々な臨床現場の困難事例を持寄り、多彩な専門分野からの意見交換がとても活発におこなわれた会となりました。 話題提供の方も専門分野の視点を離れて、以外な気づきが得られ、自分と違う専門分野での臨床のリアルを経験できることで、自身の経験値に更に見聞が広がると思います。セラピストとしての視野の拡大や柔軟さが求められる事の気づきを大切にもう一度援助職の立場について掘り下げていきたいと思えます。クローズドでの開催でした。